

はじめに

本書を手にとっていただきありがとうございます。

本書は叱り方についての本になります。とは言っても、叱り方の類書とは少し異なります。叱る場面で「対話」を取り入れる必要があるということを提案する本として本書をつくりました。

いま、新型コロナへの対応等、新しい状況の中で、子どもの気持ちのつかみづらさに悩む先生や、タブレット導入などで子どもの新しい問題行動に戸惑う先生たちの相談を多く耳にします。

いままでになかったまったく新しい状況の中では、従来どおりの発想で叱るのではなく、まずは対話がどうしても必要になります。これを痛感したのは、とくにコロナ禍の渦中にいたときです。

たまたま、オンラインで算数の授業を受けているべき時間に、図工をしている女の子がいました。普通なら叱っていたと思いますが、どうしてそうしているのかを聞いたところ「もう算数はわかっているので、課題が終わっていない図工を進めたかった」と言うのです。

話を聞いて、自分で合理的な時間の使い方を考え、実行していた彼女の判断の正しさと行動力に目を開かされる思いでした。もし対話せずに頭ごなしに叱っていたら、彼女の考えはわからなかったでしょう。

今後もどんどん新しい状況が生まれるでしょう。そうした中で、刻々と状況に対応しながら大事なことを子どもに伝えていくには、対話をもとに相手を理解して、必要なことをしっかり伝える「対話型叱り方」が必要です。

本書は1～5章で構成されています。1章では、「子どもはそもそも理解できないものと思おう！」というところから子どもとの関係を始めようということを書きました。また、対話型叱り方とは何か、叱るときに大切にしたいことなどをまとめました。いわば、対話型叱り方の理論部分です。

2章では、「先生のタイプ別、気をつけたいポイント!」ということで、ビッグ・ファイブ理論を使い、5つの性格ごとに対話型叱り方で気をつけておきたいことなどをまとめました。

3章では、クラスでよく起こる問題について11の場面についてまとめました。

4章では、難しいタイプの子への対応について10の場面についてまとめました。3章よりも難しいトラブル事例についてまとめています。

5章では、多くの先生が苦手と感じている高学年の叱り方について14の場面についてまとめました。

本書は自分の興味のあるところから読むのではなく、最初から読んでいくことをオススメします。「対話型叱り方」が自分の叱り方をアップデートするための一助になることを願っております。

樋口 万太郎

はじめに 2

1章

子どもの気持ちはわからないもの。 だから対話しよう

子どもの心は理解できないものと思っておく 10

子どもの叱り方で悩むのはよいこと 12

教師への叱り方アンケートからわかること 14

対話型叱り方とはどんな叱り方なのか？ 16

先生はどんなときに介入すべきか 18

2章

先生のタイプ別、 叱り方で気をつけたいポイント！

叱り方に影響してくる5つの性格 22

①いろいろ気になる先生の場合
——神経症傾向タイプの先生 24

②社交性が高い先生の場合
——外向性タイプの先生 26

③好奇心が強く、創造力豊かな先生の場合
——経験への開放性があるタイプの先生 28

④やさしく共感性の高い先生の場合
——協調性タイプの先生 30

⑤誠実な先生の場合
——誠実性タイプの先生 32

3章

クラスでよく起こる問題には こう対話しよう！

忘れ物をする子には「何かあった？」と切り出す 36

授業中に遊び始める子には、
やるべきことを明確化する 38

ルールや時間を守らない子には、
子ども同士でルール確認が有効 40

すぐに周りに手が出る子には、まず事実確認！ 42

注意散漫な子には、環境整備から入ると効果的 44

授業中に教室を出ていく子には、
対策やルールを一緒に考える 46

授業中うるさく邪魔する子には、
メタ認知をサポート！ 48

リーダーの子が問題を起こしたときも
ほかの子と同じに扱う 50

ほかの子にキツくあたる子には、
力を認めて伝え方を教える 52

人の失敗をバカにする子がいたら、
まずクラスの雰囲気を変える！ 54

わがママを押し通そうとする子には、
小さなわがママを認めてみる 56

4章

難しいタイプの子、 こう対話すればよかったんだ!

自分の非を認めない子には 教師の気持ちを ^{アイ} メッセージで伝える	60
叱ると黙り込む子には 言語化のサポートが大事	62
ほかの子のせいにする子には、 ほかの子の話も聞くと伝えよう	64
ウソをつく子との対話は個別に行おう	66
事実を自分に都合よく変えて 周りに言う子にはまず確認から	68
教師への暴言・暴力が出る子には チーム連携、 ^{アイ} メッセージで対応を	70
叱ると笑う・眠くなる子には いったん受け止めた上で正しい行動を伝える	72
叱られそうになると逃げる子には とりわけ穏やかに対話を	74
叱られている自覚がない子には、 自分の態度に気づける活動が効く	76
保護者対応が大変な子の場合は、 保護者に先手の連絡を	78

5章

今日から高学年が難しくなくなる! 高学年を対話で叱る

高学年女子はどこまで大人?	82
高学年女子、女性の先生が向き合うなら	84
高学年女子、男性の先生が向き合うなら	86
高学年女子に反抗されたら冷静にまず対応を	88
高学年女子が分裂・対立したら見逃さずに聞き取りを	90
高学年女子のいじめには厳しく持続的に真剣に叱る	92
高学年男子、女性の先生が向き合うなら	94
高学年男子、男性の先生が向き合うなら	96
高学年男子が騒いだときは ユニークさで和ませる	98
高学年男子でクラスを歩き回る子には 授業の工夫で対応する	100
高学年男子、反抗する子には 6秒間黙って反応をやめてみる	102
高学年男子でだらける子がいたら 「できそうかも」という活動を	104
高学年男子で友達に暴言を吐く子には ^{アイ} メッセージで短く何度も対話を	106
高学年男子、約束を破る子には その子に合わせたルールづくりを	108

忘れ物をする子には 「何かあった?」と切り出す

「どうして忘れ物をするのか」「忘れ物をなくしていくためにはどうしたらよいのか」といったことをしっかりと話し合ったり、さまざまな対応をしたりすることが大切です。

その指導
ちょっとまって!

忘れ物をしたのをビシッと叱ったら子どもがおどおどした様子になってしまい…



「忘れた」と言ってくれるだけで万々歳

人は誰もが忘れ物をする生きものです。大人である私たちでもつい忘れ物をしてしまいます。「どうして! 忘れ物をするんだ! 明日から忘れるな!」と大きな声で厳しめに叱って、忘れ物をするのが直ればそんな簡単なことはありません。そういった指導ではあまり効果がなかったことは誰もが実感をしていることでしょう。「忘れ物をしたことがダメなこと」「忘れ物をしたことで困ること」に気づいていない子もいます。だから、「忘れ物をしました」と言いに来たなら、万々歳です。そこから、子どもとの対話を深めていきましょう。

これなら
うまくいく!

厳しく注意しても減らない忘れ物は驚きながら貸し出すとよい



対話から入ると子どもは安心できる



「困っている人にはやさしくしよう」と、子どもたちに伝えているのに、先生が厳しく対応していると子どもたちは（先生は言っていることが違う）と不信感を抱きます。「忘れ物をした」と子どもが正直に言いに来たら、「〇〇さんが忘れるなんてめずらしいね。何かあった?」と驚きながら理由を聞き、子どもの言葉で思いを伝えさせます。驚くことで「いつもあなたはできている」と伝えていることにもなります。貸し出したものを返却しに来たときに「明日は頼むよ!」とひと言添えると、子どもは笑顔で家に帰ることもできます。

授業中に遊び始める子には、やるべきことを明確化する

子どもに「ちゃんと勉強をしろ」と叱る前に、授業改善が必要だということを教師が認めることがスタートです。理由を探ったり、対策を考えたりしましょう。

その指導
ちよつとまって!

「授業中に遊ぶな!」と叱り続けたら
クラスが暗くなって...



子どものせい? 授業のせいかも?

授業中に、遊んでいる姿というと、手遊びをしたり、教科書に落書きをしていたりしている姿でしょうか。これ以外にも、私は頭の中で野球をしていたり、アイドルの歌唱部分を思い出したりと妄想をしていました。見た目ではなく、見えないところでも遊んでいる可能性があります。「授業中に遊ぶな!」と叱るのではなく、なぜ遊んでしまうか理由を探ることが大切です。それは、授業がつまらない、わかりづらい、何をしたいかわからないといった理由があるからでしょう。理由を対話で探りましょう。

これなら
うまくいく!

授業で輝かせ、遊ぶよりも楽しい授業をつくる



いますべきことを明確にしてから



手遊びをしたり、学習に必要なものを触ったりする子どもに理由を尋ねると、簡単すぎて手持ち無沙汰になっていたり、何をすればよいかわからず戸惑っていたりすることがあります。そのため、早く終わったら何をして待つかが明確に示したり、難しい内容では全体で例を見せたりします。しかし、それでも遊んでしまう子どもがいます。そこで、行動は責めず、「ボランティアしてくれる人ー?」と身体的な操作のある活動に参加させます。手を動かしていたい欲求を満たしながら、学習に向かう子どもを認めるきっかけになり学習意欲も高まります。

ルールや時間を守らない子には、 子ども同士でルール確認が有効

なぜルールを守らないといけないのか、ルールを守るための方法を子どもたちと考えていき、ルールを守るという成功体験を積んでいけるようにしましょう。

その指導
ちよつとまって!

単純に、「ルールや時間を守れ!」と叱るだけでは守れないままで…



「守るべき」という前提がないのかも?

ルールや時間を守ることは、社会に出ても大切なことです。ルールや時間を守る人、守れない人のどちらが信頼をされるかと言えば、守れる人なのは明らかです。では、どうしてルールや時間を守ることができないのでしょうか。子どもによってはもしかしたら、なぜルールや時間を守らないといけないのか知らない子もいるかもしれません。だから、「ルールや時間を守れ!」と叱っても、何で守らないといけないのと思っている子もいる可能性があります。

これなら
うまくいく!

一つひとつ順番に子どもと考えて、守れたときは一緒に喜ぼう



教師の言葉より子どもの言葉が効く



たとえば、「何で廊下を走ったらダメなんだと思う?」とルールの意味を学級全体で考えさせ、「人にぶつかって怪我をさせるかもしれないから」「自分も痛い思いをするから」などと子どもの言葉で言わせます。その上で、「今日1日、廊下を歩こう」などと決まった期間の中で学校や教室のルールを守る約束をします。「先生も応援するよ」と伝えて見守り、達成できたときは一緒に喜ぶことを繰り返します。ルールを守ると自分も周りの人も気持ちがいいことを実感させ、定着をねらいます。